

まちづくりの基本方針

様々な社会変化に的確に対応を図りながら、千葉市ならではの特性を活かし、より豊かな暮らしに向けたまちづくりを進めるため、基本方針を定めます。

わたしたちが目指す目標として、「みんなで目指す未来の千葉市」を定めるとともに、「未来のまちづくりに向けた戦略的視点」、「目指すべき都市構造」、「目指すべき区の姿」及び「まちづくりを進める力」を示します。

「まちづくりの基本方針」の概要

千葉市の特性（第2章）

- 1 はるか「縄文」の昔から受け継ぐめぐみ豊かな自然
- 2 なんでもそうろう・なんでもできる利便性と安らぎをもたらすゆとり
- 3 多様な交流が生み出す拠点性、拠点性がもたらす多様な交流
- 4 おだやかで温暖な気候と交流により育まれる懐の深い市民性
- 5 未来を拓く「挑戦都市」としての矜持

2040年を展望した社会変化（第3章）

- | | |
|--|---|
| 1 人口の変化
(1) 総人口の減少
(2) 生産年齢人口の減少
(3) 高齢者人口の増加
(4) 年少人口の減少 | 2 災害等リスクの増大
(1) 地球温暖化による影響
(2) 首都直下地震
(3) 新型コロナウイルス等感染症拡大のリスク |
| 3 テクノロジーの進展
AIをはじめとするテクノロジーの発展が加速 | 4 持続可能な開発目標（SDGs）への対応 |

みんなで目指す未来の千葉市 みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市

未来のまちづくりに向けた戦略的視点

- ① 100年先に引き継ぐ 持続可能なまちづくり
 - 縄文から受け継ぐ「自然と共生する」精神を活かした、SDGs達成に向けた取組みの推進
 - みんなの力を活かした、災害に強い、安全・安心なまちづくり
- ② ゆとりを生み・活かす 創造的なまちづくり
 - 職住近接を活かしたゆとりある暮らしづくり
 - 市民が快適な暮らしを実感できるスマートシティの推進
 - 成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化芸術・スポーツのまちづくりの推進
- ③ 世界とつながる 多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり
 - 市民一人ひとりが属性に関わらず自分らしく活躍できる地域社会づくりの推進
 - 「誰一人取り残さない」セーフティネットの構築
 - 市民の懐の深さとオリンピック・パラリンピックのレガシーを活かした共生社会づくりの推進
- ④ 都市機能の集積を活かした 地域経済・社会の活性化
 - 挑戦都市としての矜持を持ち、次の時代のトレンドを創出
 - 雇用・商業・観光の拠点として、圏域の中心的役割を果たすまちづくり
 - 地域特性を活かした広域連携の推進

戦略的視点の面的展開＝目指すべき都市構造・目指すべき区の姿

まちづくりを進める力

- 多様な主体の一層の連携により「みんな」で進めるまちづくり
- 公共私役割分担の見直しと市民主体のまちづくりを支える仕組みづくり
- 多様な主体が社会課題の解決に挑戦できる環境づくり

政策分野における展開（まちづくりの総合8分野）

1 みんなで目指す未来の千葉市

より豊かな千葉市の実現に向け、千葉市ならではの特性や中長期的な社会変化を踏まえ、多様な主体が共有し、ともにまちづくりを進めるための指針として、みんなで目指すべき10年後の未来の千葉市の姿を定めます。

みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市

- わたしたちの今の暮らしは、悠久の歴史の中で先人たちが培ってきた土台の上にあります。
- 今を生きるわたしたちには、このまちの豊かさ、魅力をさらに高め、未来の市民によりよい形で引き継げるよう努める責務があります。
- 次の100年先の未来を見据えた、10年後に実現しているべき本市の姿は、市の特性である「自然」、「利便性・ゆとり」、「拠点性・交流」を活かし、都市の活力と自然の潤いが織りなす、新たな価値が生まれるまちです。
- また、本市に住まい、活動する人々が、年齢・性別・国籍・障害の有無などに関わらず、生涯を通じて学び、成長を続けることで、一人ひとりの個性を活かし自分らしく活躍できるとともに、多様な主体がつながり連携しあうことで、未来に向けて輝き続けるまちです。
- このようなまちの実現に向けて、みんなが同じゴールを目指してまちづくりに関わっていけるよう、目指すべき10年後の本市の姿を「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」と定めます。
- この目指すべき姿をみんなで共有し、ともにまちづくりに取り組んでいきます。



2 未来のまちづくりに向けた戦略的視点

「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」の実現に向け、千葉市ならではの特性を活かしつつ、新たな時代を切り拓く未来志向のまちづくりを進めるため、分野横断的かつ重点的に取り組むべき戦略的視点を、以下のとおり定めます。

戦略的視点①

100年先に引き継ぐ 持続可能なまちづくり

- 縄文から受け継ぐ「自然と共生する」精神を活かした、SDGs達成に向けた取組みの推進
- みんなの力を活かした、災害に強い、安全・安心なまちづくり

- ・わたしたちは、先人たちから縄文古来より受け継がれた、身近な自然を活かした豊かな暮らしを享受し、今もなおその「自然と共生する」精神を引き継いでいます。
- ・一方、地球規模で増大する、気候変動に伴う災害やグローバル化に伴う感染症のリスクなどの環境問題が、わたしたちの安全で安心な生活や社会の持続可能性を揺るがす要因となっています。
- ・そこで、先人たちから悠久の時の流れの中で受け継がれた「自然と共生する」精神を活かし、市民が将来にわたり、持続可能でよりよい社会で暮らせるよう、SDGsの達成に向けて、脱炭素化の推進をはじめとした様々な取組を行います。
- ・また、災害の発生や社会の変化などのリスクに対応し、安全で安心に暮らせるよう、多様なステークホルダーとの連携・協力のもとで、災害に強いまちづくりを推進します。

戦略的視点②

ゆとりを生み・活かす 創造的なまちづくり

- 職住近接を活かしたゆとりある暮らしづくり
- 市民が快適な暮らしを実感できるスマートシティの推進
- 成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化芸術・スポーツのまちづくりの推進

- ・千葉市は、これまでのまちづくりを通じた「なんでもそうろう・なんでもできる」多彩な都市機能の強化により、職住近接が実現できる大都市へと発展しました。
- ・一方、モノ消費からコト消費への転換にみられるように、わたしたちの価値観は物質的な充足から内面的な充足を重視する方向へと変化しています。
- ・そのため、今後の人口減少局面において暮らしを豊かなものとするためには、みんなが日常的な暮らしの中で、自由に伸び伸びと様々な活動・体験をすることで、内面的な充足・成長を得られることが重要です。

- ・そこで、千葉市ならではの利便性の高さにより生み出される時間のゆとりと、身近にある浜辺・海辺や内陸部の豊かな自然が生み出す空間のゆとりを最大限に活かし、市民が生活の豊かさを実感でき、住み続けたいと思えるまちづくりを推進します。
- ・また、多様な主体とともにつくる市民中心のスマートシティの推進などにより、誰もが全市域で生活の利便性や快適性を感じることができるまちの実現に挑戦します。
- ・さらに、未来のまちづくりを担う人材を育て、その活動を支えるとともに、文化芸術・スポーツの振興などにより、創造的で活力ある、質の高い暮らしを支える環境づくりに取り組みます。

戦略的視点③

世界とつながる 多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり

- 市民一人ひとりが属性に関わらず自分らしく活躍できる地域社会づくりの推進
- 「誰一人取り残さない」セーフティネットの構築
- 市民の懐の深さとオリンピック・パラリンピックのレガシー³⁰を活かした共生社会づくりの推進

- ・社会が成熟し多様化していく中、年齢・性別・国籍・障害の有無など、一人ひとりが持つ違いを認め、それぞれが個性や能力を活かして、自分らしく活躍できる社会を構築することがより重要となっていきます。
- ・併せて、家庭や経済状況など個人の置かれた環境により、孤立したり、排除されたりすることなく、安心して暮らせる社会を、これらを支える担い手の育成・確保とともに築いていく必要があります。
- ・本市の社会・経済活動の中でも、市民一人ひとりがそれぞれの個性を活かして活躍し、つながることで、新しいサービスや価値を生み出す原動力となり、それがまた多様な人材を惹きつけるという好循環を生み出し、本市や市内企業の価値向上、さらには市民の豊かな暮らしの実現にもつながります。
- ・そのため、わたしたちがこれまでの歴史の中で培ってきた市民の「懐の深さ」と、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場都市としての経験を活かし、様々な機会を通じて多様性を認め合い、尊重する意識を育むことで誰もがいきいきと活躍し、社会に活力をもたらすとともに、国内外からも選ばれる、多様性を活かしたインクルーシブなまちを目指します。

³⁰ レガシー：「遺産」と訳されるが、派生して「世代から次世代へ受け継ぐもの」という意味で用いられる。本計画では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じた取組みの成果による千葉市の財産の意味で用いている。

戦略的視点 ④

都市機能の集積を活かした 地域経済・社会の活性化

- 挑戦都市としての矜持を持ち、次の時代のトレンドを創出
- 雇用・商業・観光の拠点として、圏域の中心的な役割を果たすまちづくり
- 地域特性を活かした広域連携の推進

- ・ 千葉市は、東京、房総各方面、東京圏にある2つの国際空港への高い交通利便性を有するとともに、内陸部の農業を含め、3都心や臨海部などに多様な産業が集積しており、本市に住まう人々とどまらず、市外の人々にとっても、広域的な仕事や学びの場、買い物の場、そして癒しやスポーツなどの場として大きな役割を担っています。
- ・ また、未来技術の実証フィールドとして、自動運転モビリティの導入による回遊性の向上や賑わいの創出に取り組むなど、時代の先端に挑戦しています。
- ・ 人口構造が変化する中で、極力、その影響を緩和しつつ、本市が活力を維持していくためには、市内各エリアの特性を活かしながら、既存産業の発展や新事業の創出を図るとともに、高い交通利便性を活かし、本市と関係の深い県内エリアの情報や資源を共有し合うなど、それぞれが持つ強みを活かし、地域の枠を超えて連携・協力していくことが重要となります。
- ・ そこで、本市とのつながりが深い市以東、以南を中心とした周辺都市を含む圏域全体としての活性化を図るため、未来技術の実装に向けた取組みの推進、雇用の創出や商業、観光機能の強化などによる交流人口の拡大とともに、大消費地と近接する立地特性を活かした農業振興など、東京圏において本市が担うべき機能的役割を踏まえた、戦略性を持った本市の役割を果たすまちづくりに挑戦します。
- ・ また、圏域の価値向上を図るため、本市を「入口」に広がる房総の大自然や、そこで獲れる海の幸・山の幸などの多彩な魅力の活用や、テレワークやワーケーション³¹など多様な働き方の提供により、東京圏にあって自立した性格をもつちば共創都市圏³²ならではの新たなライフスタイルを提案するなど、地域特性を活かした広域連携を推進します。

³¹ ワーケーション（Workcation）：「Work（仕事）」と「Vacation（休暇）」を合わせた造語。テレワークを活用し、リゾート地や温泉地等で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。

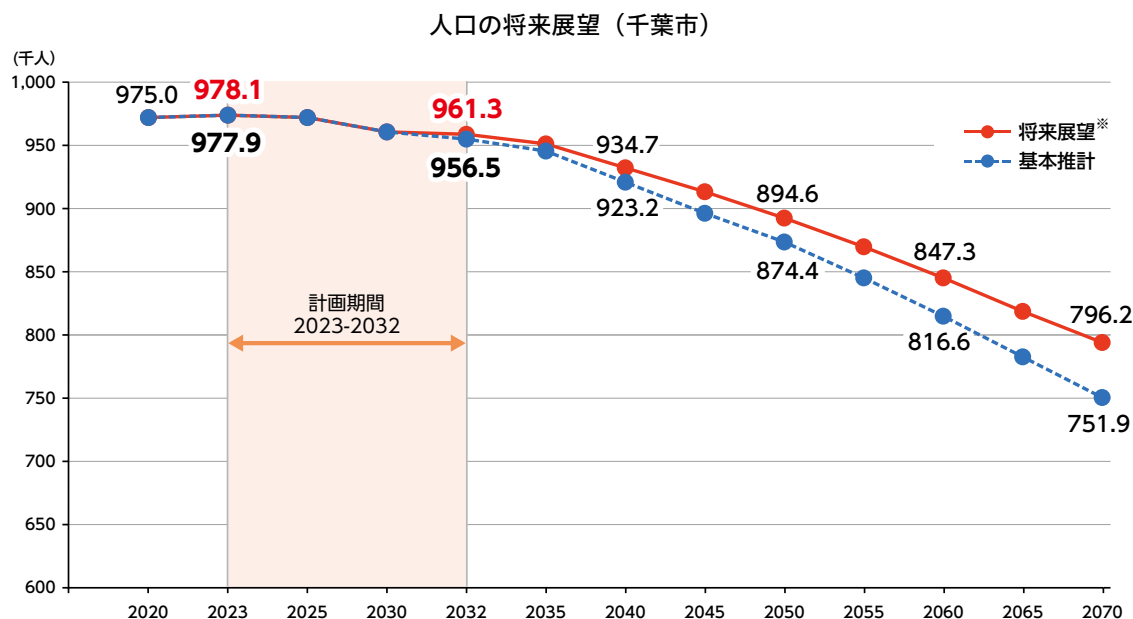
³² ちば共創都市圏：本市の以東・以南を中心とした本市と経済・雇用などの面で関連の深い周辺自治体を含むエリアを指しており、本計画における「圏域」と考え方を同一にするもの。

3 人口の将来展望

千葉市の人口について、「未来のまちづくりに向けた戦略的視点」に基づく地域社会・地域経済の活性化の取組みを踏まえた将来展望を示します。

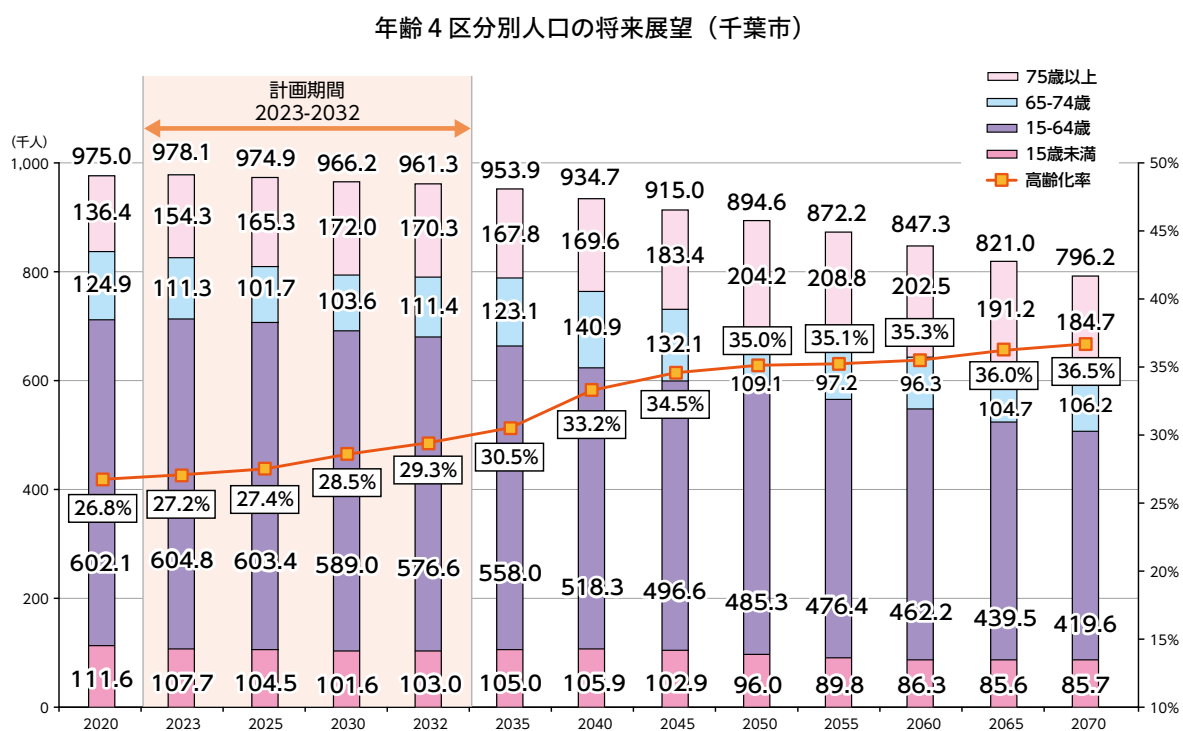
本市の人口は、2020年代前半をピークに本計画の計画期間中は微減し、目標年次である令和14年（2032年）に961.3千人（基本推計から4.8千人増）となり、その後、緩やかに減少する見通しです。

また、生産年齢人口・年少人口についても減少し、高齢者人口は増加する見通しとなっています。



※将来展望：基本推計（P30第3章）に地域活性化の取組みを踏まえ、合計特殊出生率の改善及び社会増を見込んだ場合

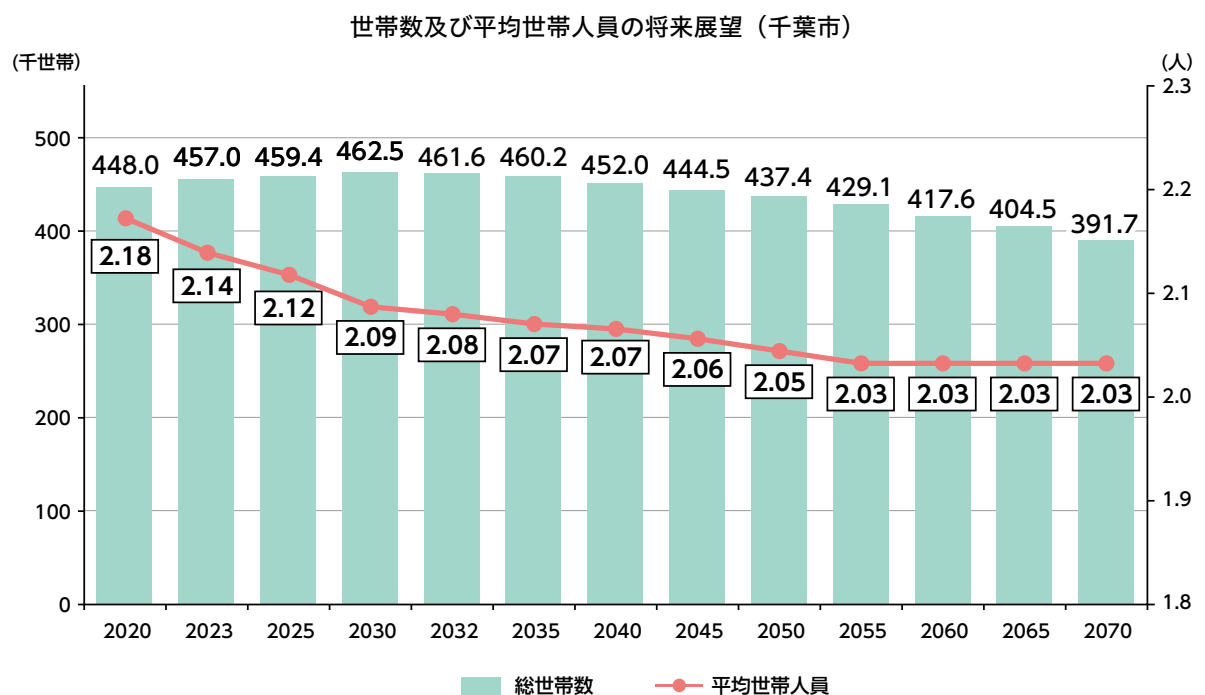
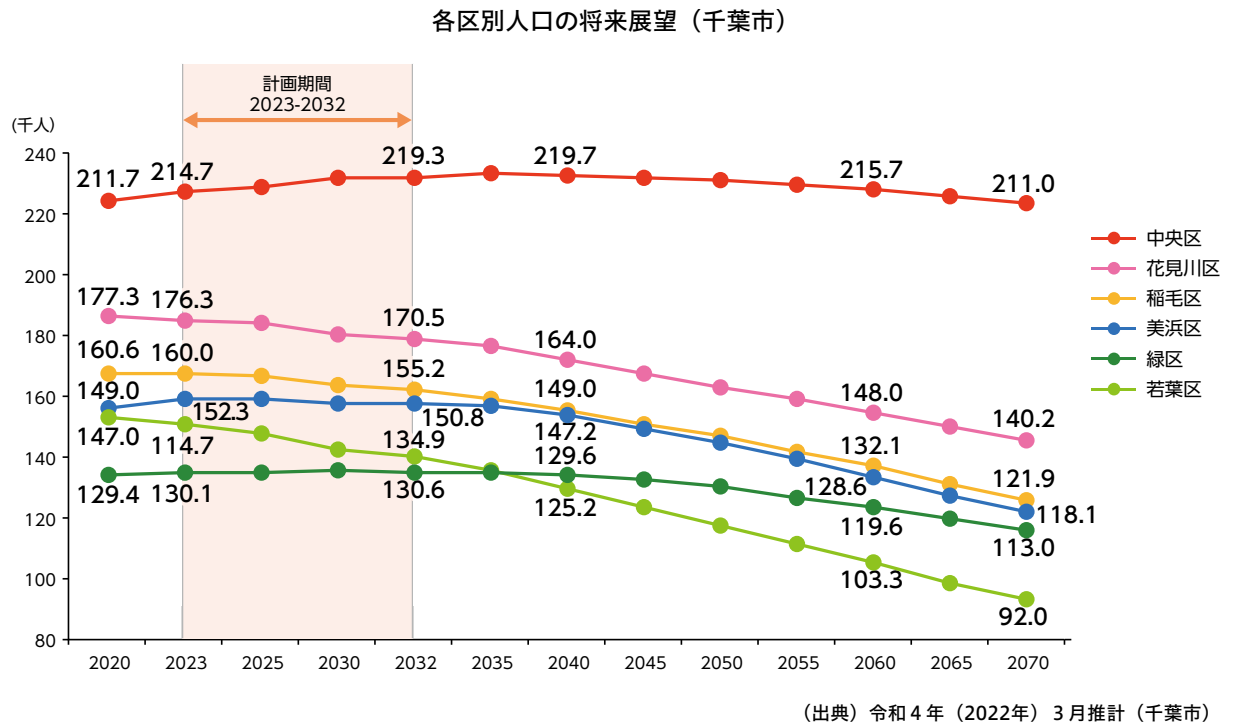
（出典）令和4年（2022年）3月推計（千葉市）



（出典）令和4年（2022年）3月推計（千葉市）

各区においては、中央区、緑区、美浜区は増加又は維持となり、花見川区、稲毛区、若葉区では通減する見通しです。

また、世帯数については、計画期間中也増加し、令和12年（2030年）にピークを迎えますが、平均世帯人員は緩やかに減少することが見込まれます。



4 目指すべき都市構造

「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」の実現に向けて、多様な主体による社会経済活動が持続的かつ活発に展開される都市空間をつくるため、それを支える骨格となる本市の目指すべき将来の都市構造を、本市の特性や社会変化、未来のまちづくりに向けた戦略的視点などを踏まえながら示します。

（１）都市構造の形成に求められる視点

本市の特性や戦略的視点を踏まえた今後の目指すべき都市構造の形成において求められる視点を示します。

- ・千葉市ならではの豊かな緑と水辺と共生し、気候変動や災害等へのリスクにも強くしなやかに対応できる、安全で安心な暮らしを支える都市としての持続性の確保
- ・圏域の雇用・商業・観光の拠点としての役割を果たすとともに、周辺都市はもとより東京や海外ともつながり、広域的な連携・交流を促進するネットワークの構築
- ・都心や生活拠点を中心とした都市機能の集積や、広やかな土地・空間利用を活かし、時間と空間のゆとりを生み出すことで、もたらされる暮らしの質の向上

（２）都市構造の将来像

（１）で示した視点を踏まえ、「みどり（緑と水辺）」、「しごと（産業）」そして「くらし（生活）」の3つの分野から描く将来の姿を重ね合わせ統合した、「都市構造の将来像」を示します。この将来像は、多様な社会経済活動が展開される都市空間を将来にわたり支える骨格となるものです。

- ・「みどり（緑と水辺）」については、内陸部に残された山林・田園などをはじめ、加曽利貝塚などの歴史的な資源や保養地であった歴史をもつ東京湾に面する浜辺など、はるか縄文から受け継ぐ豊かな自然を擁しています。これらを保全・活用するとともに、環境にやさしいエネルギーの活用によるレジリエンス³³強化と脱炭素化を促進することにより、将来にわたり持続可能な安らぎと潤いある暮らしを実現します。
- ・「しごと（産業）」・「くらし（生活）」については、市域における産業の集積や、圏域の中核機能を担う都心に加え、日常生活を送るうえで必要なサービスや業務が集積した身近な生活拠点の拠点機能を向上させるとともに、各拠点間や居住地域を鉄道やモノレール、バスに加え、次世代の交通手段や通信技術などのネットワークでつなぐことにより、さらなる都市の機能強化・利便性の向上を図ります。
- ・また、これらの拠点を結ぶ千葉都心を中心とする放射状・環状の道路網の整備により、各拠点間・周辺都市や東京間の移動・連携・交流を促進します。
- ・このような取組みを通じて、全市域で本市の礎である豊かな緑と水辺と共生しつつ、多様な経済活動や人々の暮らしが地域にあった生活サービス機能や最適化された公共交通サービスなどに支えられ活発に営まれることで、人口減少や少子高齢化が進行しても安心して暮らし続けられる「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク³⁴」を実現します。

³³ レジリエンス：様々な危機からの回復力、復元力及び強靱性（しなやかな強さ）のこと。

³⁴ コンパクト・プラス・ネットワーク：地域の活力を維持するとともに、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直していく考え方のこと。

【都市構造の将来像】

千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク

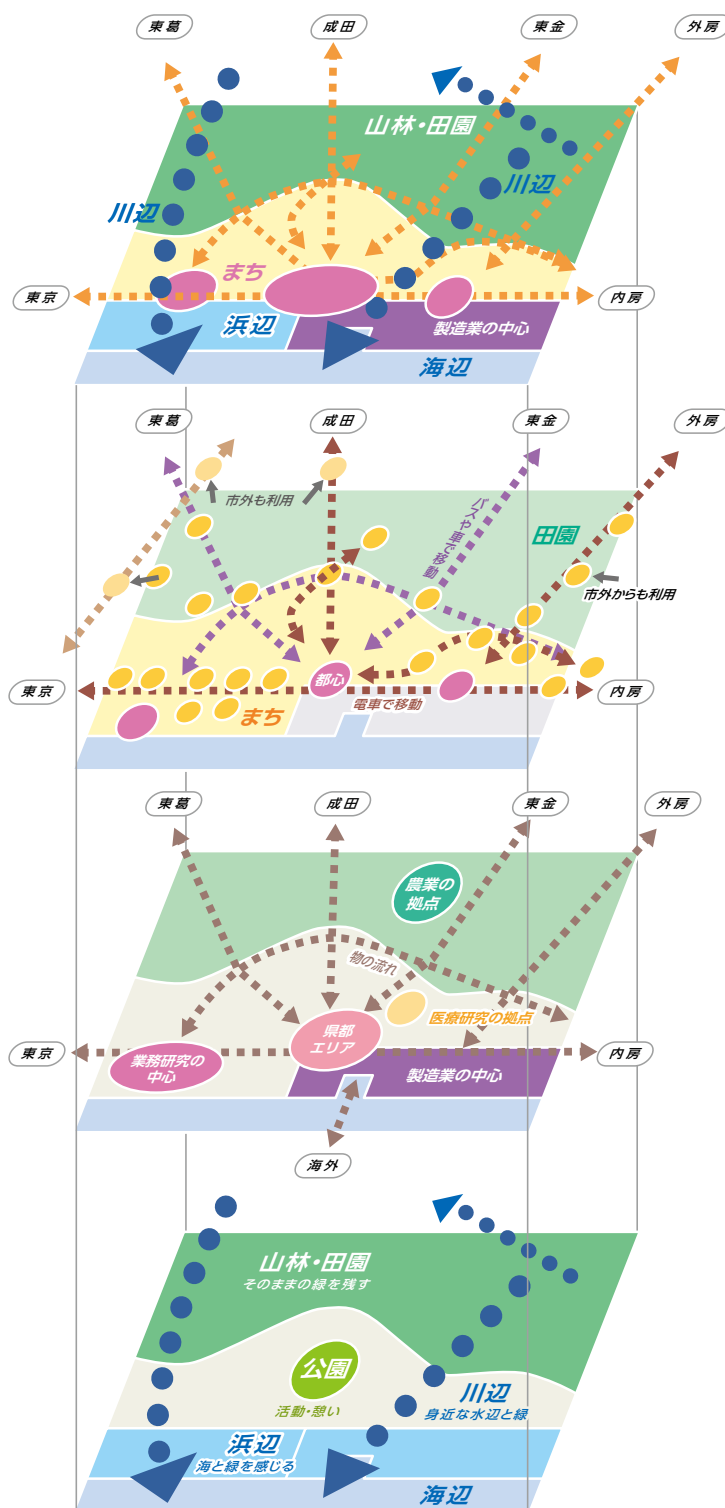
～下総台地の緑風、東京湾の浜辺、人々が行き交う“ちば”に住まう～

将来像

くらし

しごと

みどり



千葉市型コンパクト・プラス・ネットワークが実現されたまちの姿

- 下総台地に広がる山林・田園や川辺、また東京湾の遠浅の浜辺・海辺では身近に自然とふれあい、大規模な公園ではレクリエーションなどにより人々が交流しています。
- 市域内をはじめとする産業の活動が高度な次元で相互に連携し、基幹的な道路や鉄道、海運等により強固な交通網が構築され、東京圏域内外の産業エリアがつながっています。
- 首都圏の主要な拠点都市として、都心が経済・産業、コンベンションなどの中枢的な役割を担う一方で、公共交通沿線や生活拠点の周辺などへ居住や都市機能の立地が緩やかに進んでいます。
- 生活拠点では日常生活に必要な施設が身近にあるなど生活機能が確保され、歩いて暮らすことができる居心地のよい生活圏を形成し、空間の質や魅力の高いまちとなっています。
- 生活拠点が公共交通や次世代の交通サービスでつながり、拠点間を円滑に移動できるとともに、通信技術の導入を多くの産業や社会生活に取り入れ、地域の特性に応じた多様な働き方や住まい方を支える環境が確立しています。
- 豊かな自然が広がる郊外部では、それぞれの特性を活かしながら多様なライフスタイルを選択することができ、郊外部を含む全市域で、災害など様々なリスクに対応し、安全で安心に暮らし続けられる良好な環境が整っています。
- このような都市構造＝「千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク」が実現した姿を、本市独自の資源を想起する言葉を紡いで『下総台地の緑風、東京湾の浜辺、人々が行き交う“ちば”に住まう』と表現し、多様な主体がこのイメージを共有することで、市民が強い誇りと愛着を持ち、そして自らもまちづくりに積極的に参加する、そうした魅力あるまちを創っていきます。

(3) 基礎的な都市構造

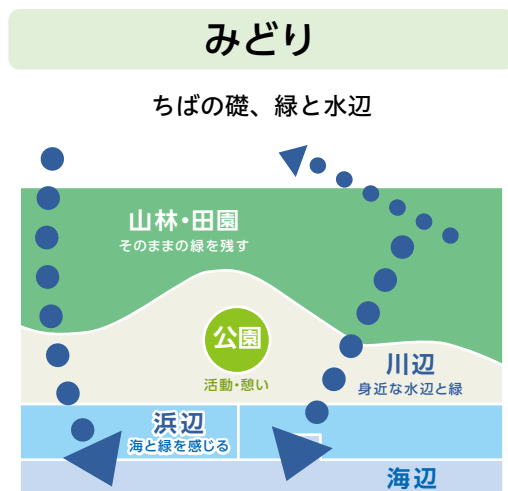
都市構造の将来像を構成する、「みどり（緑と水辺）」・「しごと（産業）」・「くらし（生活）」の3つの基礎的な構造について、それぞれの目指す空間形成の方向性を示します。

① みどり

縄文から受け継ぐ豊かな自然と人が共生する 潤いのある都市構造

～千葉市の礎、緑の塊と水辺～

- ・千葉市では、特別史跡加曽利貝塚に象徴されるように、はるか縄文の昔から自然と共生した暮らしを営むことができた豊かな自然環境に恵まれてきました。本市の豊かな緑と水辺は、現代に至るまでわたしたちの暮らしを支え続けており、都市としての大切な礎です。
- ・内陸部の河川沿いや谷津田に残る田畑、水源の涵養や土壌の保全などの多面的な機能を有する山林、市内に数多く残る貝塚などの豊かな緑と、東京湾に至る川辺や東京湾に面した遠浅の浜辺・海辺について、それぞれの特性に応じた保全と活用を図るとともに、人と人、人と自然の交流を促進する緑のランドマークとして公園を位置付け、市域全体で身近に自然とふれあうことができる、自然と人が共生する持続可能な潤いのある都市構造の形成を目指します。



凡例	名称	考え方
	山林・田園	緑を残し、活かす ・内陸部に残る田畑や山林、市内に残る貝塚など豊かな緑を保全し活用するエリア
	浜辺・海辺	海と緑を感じる ・海辺の立地を活かした、海と緑が交じり合うエリア
	川辺	人と水辺と緑をつなぐ ・郊外部と臨海部、人と自然、川辺と緑がつながる軸
	公園	緑のランドマーク ・人と人、人と自然などの交流を促し、レクリエーションの場をつくるエリア

② しごと

人材の交流が生まれる拠点性と多様な産業の集積を活かし、新たな価値の創出を支える都市構造

～産業間の連携による新産業の創造への挑戦～

- ・広域的な雇用や産業活動等の拠点である本市の特性を踏まえ、未来を拓く挑戦都市として、多様な分野の産業に係る技術や人材の相互連携などによる新たな価値が生まれる基盤づくりを進めます。
- ・県都として集積された商業・業務・文化の諸機能の更新を促進するとともに、先端技術の導入などの研究開発や、ものづくり産業をけん引する製造業の集積を図ることでエリアの魅力をさらに高めます。
- ・また、農業については、先端技術の活用や他産業との連携により、広域的な農業エリアを先導する拠点の形成を目指します。
- ・さらに、医療については、医療研究機関等の集積を活かし、他産業との連携や先端技術を導入することで、新事業の創出等を促進します。
- ・加えて、国内外のヒト・モノ・技術をつなぎ都市としての発展を支え、災害時には生活や復興を支える柱となる、基幹的な道路や鉄道、海運等様々な交通網の強化を進めます。

しごと

産業間の連携による新産業の創造への挑戦



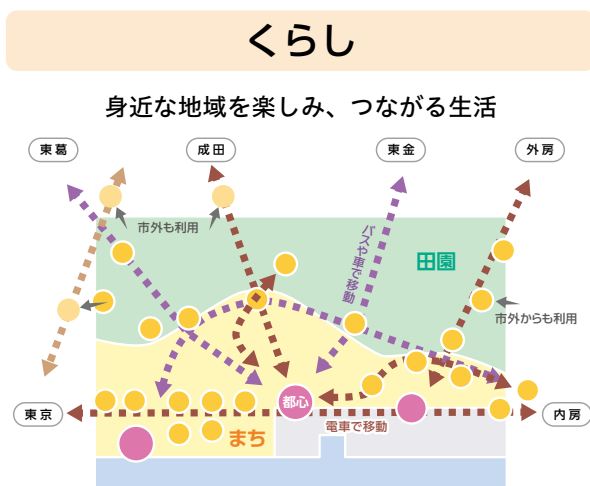
凡例	名称	考え方
●	県都エリア	県都のエリア ・県都の歴史ある商業・業務・文化の中心エリア
●	業務研究の中心	業務研究のエリア ・グローバルなイベント、MICE、ヒト・モノ・情報・産業の集積・イノベーション、調査・研究の中心エリア
■	製造業の中心	製造業のエリア ・製造業の中心エリア
●	農業の拠点	農業の拠点 ・他産業との連携や先端技術も活用した広域的な農業エリアを先導する拠点
●	医療研究の拠点	医療研究の拠点 ・他産業との連携や先端技術を活用し、新事業の創出等を図る拠点
⇄	物の流れ	様々な産業をつなぐ ・基幹的な道路交通や鉄道、海運など様々な交通網を用いて各種産業をつなぐ軸

③ 暮らし

居心地のよい生活圏を形成し、 多様なライフスタイルを支える都市構造

～身近な地域を楽しみ、つながる生活～

- ・ 都心、生活拠点のそれぞれの拠点が、公共交通はもとより次世代の交通サービスや、高度化する情報通信技術により構築されるネットワークなどでも効果的につながり、どこからでも必要な時に、必要なサービスにアクセスできるまちづくりを進めます。
- ・ 周辺都市を含めた圏域の中核としての都心や職住近接の生活を支えるための生活拠点において、それぞれの地域特性を活かした質の高いサービスを受けることができるよう拠点機能の向上を図ります。
- ・ 郊外の豊かな自然の広がる田園エリアにおいても、多様な住まい方や働き方を選択できる都市構造の形成を目指します。
- ・ 災害など様々なリスクに対応し、安全で安心に暮らし続けられる環境の整備を目指します。



凡例	名称	考え方
●	都心	<u>都市レベルの高い機能を持つ拠点</u> ・ 市内だけでなく都市圏を越える広域的な都市の中核となる商業・業務・文化の拠点
●	生活拠点	<u>生活に必要な機能を持つ拠点</u> ・ 日常生活を送るうえで必要なサービス、業務の拠点
■	まち	<u>まちのエリア</u> ・ 主に市街地で、徒歩や自転車、バス、鉄道の移動が身近なエリア
■	田園	<u>みどりのエリア</u> ・ 主に郊外で、バスや自動車の移動が身近なエリア
⇄	鉄道	<u>鉄道・軌道による移動</u> ・ 広域的な鉄道・軌道の移動軸
⇄	幹線道路	<u>バスや車による移動</u> ・ 広域的な道路の移動軸
→	市内外の拠点への流れ	<u>市内外の拠点への移動</u> ・ 近くの市内外の拠点への移動軸

5 目指すべき区の姿

「みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市」の実現に向け、6つの区が有する特徴を踏まえた将来像を明らかにします。

また、各区の特徴を、「未来のまちづくりに向けた戦略的視点」や「目指すべき都市構造」を踏まえつつ整理し、これらを最大限に活かし、伸ばすことによって、各エリアの充実を目指します。

そして、その特徴を区域を越えて波及させることでエリア間の交流を生み出し、市全体の魅力と活力の向上へとつながるまちづくりを進めます。

《目指すべき区の姿の構成》

項目	内容
目指すべき区の姿	主な特徴を活かし、伸ばすことにより、10年後、20年後に実現すべき区の将来像
主な特徴	各区の概況や、これまでの歴史やまちづくりの中で培ったエリアの特徴
実現に向けた取組みの方向性	目指すべき区の姿を実現するための取組みの方向性

※地域課題等を踏まえた取組みについては、「まちづくりの総合8分野」における施策の中で、推進します。

基本情報

	人口※1	世帯数※1	面積※2
中央区	211,736人	109,336世帯	44.71km ²
花見川区	177,328人	81,123世帯	34.19km ²
稲毛区	160,582人	74,796世帯	21.22km ²
若葉区	146,940人	64,840世帯	84.19km ²
緑区	129,421人	50,996世帯	66.25km ²
美浜区	148,944人	66,891世帯	21.20km ²

(出典) ※1) 人口・世帯数：令和2年(2020年)国勢調査人口等基本集計(総務省)

※2) 面積：令和3年(2021年)全国都道府県市区町村面積調(10月1日時点)(国土地理院)

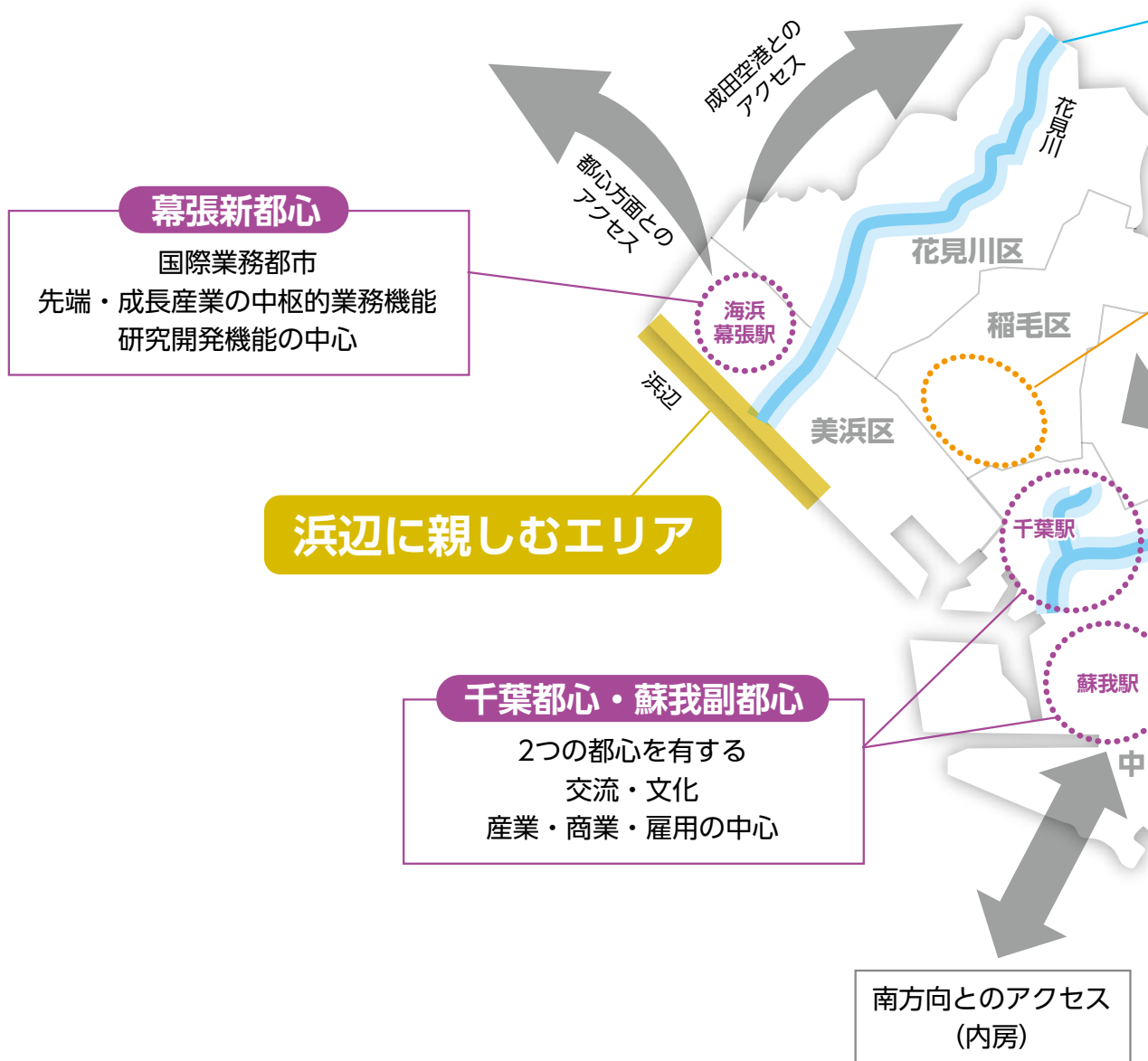


花見川区

川と緑と花々に包まれた、
安らぎと潤いのまち・花見川区



稲毛区



美浜区

海辺を楽しみ、
世界とつながるまち・美浜区



中央区

まなびと創造が脈打つ
文教のまち・稲毛区



共生の原点 縄文が息づく、
自然の恵み豊かなまち・若葉区

川辺に親しむエリア

高等教育機関の集積地

=未来の人材の育成

東方向とのアクセス
(九十九里など)

加曽利貝塚

=縄文文化の発信

加曽利貝塚

鹿島川水系

若葉区

川辺に親しむエリア

都川・坂月川水系

農政センター

農政センター

=農業の生産性向上

中央区

緑区

南方向とのアクセス
(外房)

緑と農に親しむエリア

人々が行き交い、
にぎわいと文化を生み出すまち・中央区



田園と調和する
広やかで快適なまち・緑区

(1) 中央区

①目指すべき区の姿

人々が行き交い、にぎわいと文化を生み出すまち・中央区

②主な特徴

- 本区は、県都・千葉市の中央に位置し、大正10年（1921年）1月1日の市制施行以来、政治・経済・文化の中心地として発展してきました。その起源は古く、平安時代後期の大治元年（1126年）、千葉常重が大椎（緑区）から現在の亥鼻付近（中央区）に本拠地を移したことにより、千葉市の都市としての歴史が始まったと言われています。
- 交通ネットワークについて、公共交通では、JR・京成電鉄・千葉都市モノレールの各線が接続する千葉駅が、市内及び東京方面・県内各方面を結ぶ広域的な交通結節機能を担っています。また、東京方面と外房・内房方面を結ぶ結節点として、JR蘇我駅も大きな役割を果たしています。自動車交通では、千葉都心を走る京葉道路や国道14号、16号、51号、126号、357号が本市の放射・環状の道路網の中心となっており、都市間の人やモノの流れを支えています。
- 一日平均の乗車人員が市内で最も多い千葉駅（令和元年（2019年）時点：107,829人／日）を中心とした千葉都心は、県庁、市役所、裁判所等、国・県・市の各種行政機関のほか、銀行・オフィスビル等の多様な都市機能が集積するとともに、千葉市美術館、郷土博物館、千葉市科学館、中央図書館、生涯学習センターなどの文化施設や多くの医療機関が集積しています。また近年では、千葉駅からの至近性を活かした都心居住も進みつつあります。
- 区の昼夜間人口比率（令和2年（2020年）時点：122.3%）は6区の中で最も高く、交通アクセスの良さと企業等の集積を背景として市内外から多くの人が集まる就労の場であるとともに、交流が生まれる場となっています。
- 千葉駅周辺では、千葉駅周辺の活性化グランドデザインに基づき、千葉駅駅ビルの建替えに伴う西口・東口の再開発事業、中央公園・通町公園の連結強化と賑わい創出、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を進めています。また、千葉駅北側に位置し、本市を代表する公園の一つである千葉公園においては、国際規格に準拠した自転車競技の走路を有する多目的スポーツ施設TIPSTAR DOME CHIBA（千葉JPFドーム）をはじめ、さらなる魅力向上や周辺地域の活性化を図るための再整備が進められているほか、市の花である「オオガハス」が栽培・保存されており、毎年多くの花を咲かせるなど、市民に憩いの場を提供しています。
- 川崎製鉄の操業など日本の高度成長を支える京葉工業地域の先駆けとなった地域である蘇我駅周辺とその臨海部における蘇我副都心では、商業、業務、スポーツ・レクリエーションなどの諸機能が集積するとともに、さらなる発展に向けたまちづくりが進められています。また、蘇我スポーツ公園の中には、ジェフユナイテッド市原・千葉の本拠地であるフクダ電子アリーナ（千葉市蘇我球技場）が立地しています。
- 千葉みなと駅の西側の千葉中央港地区周辺には、千葉ポートタワーや千葉ポートパーク、県立美術館など、文化・レクリエーション施設が集積するほか、旅客船さん橋や「さんばしひろば」が整備され、旅客船の運航やイベントが開催されるなど、本市の観光スポットの一つとなっています。

③実現に向けた取り組みの方向性

- 都市機能集積、県内随一の拠点性を活かし、本市以東、以南など房総各方面への玄関口として、広域的な地域活性化に向けた役割を果たします。
- 千葉都心や蘇我副都心を中心に、商業や業務機能など多様な都市機能のさらなる集積が、働く人、学ぶ人、住む人、観光客など、多様な人々を惹きつけ、交流や賑わいを生み出します。
- 多様な文化施設・資源の集積を活かし、「鑑賞」ととどまらない、市民主体の文化の「創造」の場となるとともに、次世代の文化の担い手を育成する役割を果たします。



千葉市政令指定都市移行・区設置30周年記念フォトコンテスト 中央区区長賞（撮影場所：千葉公園）
Instagramアカウント名：kozrinco_padelさん



親子三代夏祭り

(2) 花見川区

① 目指すべき区の姿

川と緑と花々に包まれた、安らぎと潤いのまち・花見川区

② 主な特徴

- 本区は、市北西部に位置し、区北部は八千代市、区北東部は佐倉市及び四街道市、区西部は習志野市に隣接しています。
- 交通ネットワークについて、公共交通では、JR総武本線、京成電鉄千葉線が並行して区南西部を走るとともに、区北部に一部かかるように京成電鉄本線が通っています。自動車交通では、幕張IC・武石ICがあり京葉道路へのアクセス性が高いほか、東関東自動車道水戸線には新たなスマートインターチェンジの整備に向けた検討が進められています。また、国道14号、16号、357号、主要地方道である千葉鎌ヶ谷松戸線、長沼船橋線、穴川天戸線などが主要道路として利用されています。
- 区の名称にもなっている花見川は、本区を南北に貫き、印旛沼から八千代市、本区及び美浜区、そして東京湾へと流れ込んでおり、その川沿いは、雑木林、竹林、アシ、ススキ等の植生に恵まれ、市内でも有数の野鳥の生息地となっているほか、桜並木が点在し、河川の景観を彩っています。また、釣りを楽しむ場として利用されるとともに、自然歩道やサイクリングコースが整備されているほか、野菜を中心とした都市農業の営まれる農地や豊かな緑も残されています。
- 戦後の日本経済復興を契機に、花見川団地をはじめとする大規模住宅団地の建設が進み、その周辺でも宅地化が進展しました。
- 本区は、オオガハス発祥の地であり、このハスの実は昭和26年（1951年）、東京大学検見川厚生農場（現東京大学検見川総合運動場）で発掘されました。この発掘作業は故大賀一郎博士を中心に、地域の方々、地元の小中学生など、大勢の方の協力によって進められました。

③実現に向けた取組みの方向性

- 東京方面への優れたアクセス性を有する環境の中で、花見川の緑あふれる河川空間とそれを彩る花々など、豊かな自然にふれあえる、安らぎと潤いに満ちた生活ができるまちを創ります。
- 区を貫き流れる花見川やサイクリングコースを軸に周辺の資源をネットワーク化することにより、市内外の人々に四季折々の多彩な都市近郊型アウトドアの機会を提供します。
- 高速道路へのアクセスを活かしたインターチェンジ周辺における産業集積など、地域経済の活性化を図ります。



千葉市政令指定都市移行・区設置30周年記念フォトコンテスト 花見川区区長賞（撮影場所：花見川千本桜緑地）
Instagramアカウント名：mitty_yさん



オオガハス（しらすぎ公園）

(3) 稲毛区

①目指すべき区の姿

まなびと創造が脈打つ文教のまち・稲毛区

②主な特徴

- 本区は、市北西部に位置し、面積は6区の中では2番目に小さな区ですが、人口は中央区、花見川区に続く3番目になっており、住宅の集積が進んでいます。
- 交通ネットワークについて、公共交通では、JR総武本線、京成電鉄千葉線、千葉都市モノレールが区内を通っており、中でもJR総武・横須賀線快速が停車するJR稲毛駅は、バス路線を含めた交通の要衝・生活の拠点となっています。自動車交通では、京葉道路、東関東自動車道水戸線、国道16号のほか、臨海部と内陸部を直結する都市計画道路新港横戸町線が整備されています。
- 区内には、千葉大学、千葉経済大学、敬愛大学などの高等教育機関が集積するとともに、量子科学技術研究開発機構が立地しており、若者が集い学ぶ場、また研究開発の場となっています。
- また、先進的な理数教育に取り組み、国際的に活躍できる科学技術人材の育成を推進する市立千葉高等学校が立地しています。
- 本区は、現在、海に面していませんが、昭和30年代に大規模な埋立てが始まるまでは、海水浴や潮干狩りが楽しめ、多くの文人墨客も訪れる保養地として賑わいました。保養地としての稲毛海岸の名残として、旧神谷伝兵衛稲毛別荘や千葉市ゆかりの家・いなげが保存されています。
- 稲毛海岸が遠浅の海岸だった頃に行われていた「夜灯漁」の風景を現代に伝えようと、京成稲毛駅せんげん通り商店街が中心となり、稲毛あかり祭（夜灯ーよとぼし）が行われています。
- 内陸部の長沼・六方地区は工業用地が大部分を占め、千葉北ICに近く交通アクセスに優れているため、大手企業から中小企業まで多くの製造業や物流施設が立地しています。また、このエリアには、職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）も立地しています。

③実現に向けた取組みの方向性

- 充実した居住環境・教育環境を活かし、若い世代が集まり、交流し、成長する活力ある文教のまちを確立します。
- 大学・高等学校が集積するエリアの特徴を活かし、産学官連携により自らの力で新たな価値の創出などができる多様な人材を育成・輩出し、市内はもとより、広域的に活躍する人材育成拠点としてまちづくりや地域経済の活性化に寄与します。



千葉市政令指定都市移行・区設置30周年記念フォトコンテスト 稲毛区区长賞（撮影場所：稲毛区长沼町）
Instagramアカウント名：mugimaru06さん



旧神谷伝兵衛稲毛別荘

(4) 若葉区

① 目指すべき区の姿

共生の原点 縄文が息づく、自然の恵み豊かなまち・若葉区

② 主な特徴

- 本区は、市北東部に位置し、面積は6区の中で最大、市域の約3割を占めています。
- 交通ネットワークについて、公共交通では、区北西部を通るJR総武本線と、区西部地区を東西に走る千葉都市モノレールが都賀駅で接続しており、バス路線とあわせ、交通の軸となっています。自動車交通では、京葉道路、千葉東金道路や国道16号、51号、126号などが地域の主要道路として利用されています。
- 特別史跡加曽利貝塚は、全国に約2,400か所ある縄文時代の貝塚の中で日本最大級の規模を誇る集落型貝塚であり、先人たちが2,000年もの間、自然とともに生きる文化を育み、持続可能な社会を築いていたことを示しています。また、縄文文化や貝塚の研究と、その成果を発信する拠点として、新博物館の整備に向けた取り組みを進めています。
- 佐倉市域を経て印旛沼へと流れ込む鹿島川流域を中心とする区東部地域には、御成街道や富田さとにわ耕園、千葉ウシノヒロバなどが位置しています。周辺は農業が盛んであり、農家数、経営耕地面積とも6区の中で最も多く、区内には農政センターが立地するなど、本市の農業生産をけん引するエリアとなっています。
- 縄文の森特別緑地保全地区をはじめ、緑地・里山・谷津田などの豊かな自然環境に恵まれており、泉自然公園や大草谷津田いきものの里、坂月川ビオトープなどでそうした自然に親しみ、ふれあうことができます。
- 昭和60年（1985年）に開園した動物公園では、2本足で立つレッサーパンダの「風太」が全国的な人気を集めるなど、市内外から多くの人々が訪れています。その後も、ライオンやチーターをはじめとした新たな動物を導入するなど、動物とふれあえる市民の憩いの場として親しまれています。

③実現に向けた取組みの方向性

- 農業が最も盛んなエリアであるという地域特性を活かし、本市の農業をけん引するエリアとして農業の振興を図るとともに、縄文から受け継ぐ豊かな自然を活かし、その恵みを身近に享受できるまちを創ります。
- 特別史跡加曽利貝塚を活用し、多くの人が縄文時代の暮らしを体感できる、学びと観光の機会を創出することを通じて、自然と調和・共生する精神を縄文から次世代へとつなぎます。
- 富田さとにわ耕園、千葉ウシノヒロバ、動物公園など内陸部の地域資源を活かし、東京からも気軽に自然や農とふれあえる稀有なエリアとして、活発な都市・農村交流を行います。



千葉市政令指定都市移行・区設置30周年記念フォトコンテスト 若葉区区长賞（撮影場所：富田さとにわ耕園）
Instagramアカウント名：waya_koさん



復元住居（特別史跡加曽利貝塚）

(5) 緑区

①目指すべき区の姿

田園と調和する広やかで快適なまち・緑区

②主な特徴

- 本区は、市東南部に位置し、面積は6区の中で2番目に大きな区です。
- 都川の上流部や村田川周辺には貴重な自然が残されているとともに、若葉区同様に農業が盛んであり、これらで構成される田園風景が広がっています。
- 交通ネットワークについて、公共交通では、区を中心を東西にJR外房線、西端部に京成電鉄千原線が通っています。自動車交通では、千葉外房有料道路、主要地方道千葉大網線が区を東西に貫き、外房の雄大な自然への入り口となっています。
- 「日本の都市公園100選」にも選定された県内有数の都市公園である昭和の森を有し、また昭和の森フォレストビレッジやホキ美術館が立地するなど、市内外の人々の憩いや活動の機会を創出しています。
また、泉谷公園は、毎年5月下旬から6月上旬頃に公園内でホタルを眺めることができ、夏の風物詩として市民の憩いの場となっています。
- 鎌取駅南部のおゆみ野や土気駅南部のあすみが丘においては、土地区画整理事業により計画的な街並みが形成され、宅地化や大型商業施設の進出により、現在も人口増加が続いています。
- 面積あたりの住宅地価格（令和元年〔2019年〕時点：6,6万円／㎡）が6区中最も安価な立地環境を活かし、住宅あたりの延べ面積（平成30年〔2018年〕時点：103㎡）及び持ち家比率（平成27年〔2015年〕時点：72.7%）が最も高く、住空間のゆとりに恵まれた環境にあると言えます。
- 官民連携により整備した産業用地であるネクストコア千葉誉田など、ゆとりある空間を活かした産業の立地が進んでいます。

③実現に向けた取組みの方向性

- 東京都心部からほどよく離れたゆとりある土地・空間、豊かな自然と充実した住環境を活かし、自然と都市機能が調和した快適性・利便性・安全性の高いまちの創出を図ります。
- 自然に近くゆとりある空間のポテンシャルを活かし、農業や産業の振興を図るとともに、感染症等のリスクにも対応した、自然も仕事もそばにある、心豊かに暮らせる新たな職住近接のライフスタイルが実現できる環境を創ります。
- 房総の大自然につながる豊かな田園風景と計画的に整備された広やかな街並みが調和するとともに、昭和の森を核とするスポーツや芸術など多彩な活動が暮らしに彩りを加える、バランスの取れたまちづくりを進めます。



千葉市政令指定都市移行・区設置30周年記念フォトコンテスト 緑区区長賞（撮影場所：泉谷公園）
Instagramアカウント名：nao8024さん



あすみが丘東（昭和の森付近）

(6) 美浜区

① 目指すべき区の姿

海辺を楽しみ、世界とつながるまち・美浜区

② 主な特徴

- 本区は、市北西部に位置し、区の全域が埋立てにより造成された地域です。昭和40年代後半に計画人口24万人の海浜ニュータウンの整備が始まり、計画的なまちづくりが進められました。
- 交通ネットワークについて、公共交通ではJR京葉線が区を貫いており、稲毛海岸駅・検見川浜駅・海浜幕張駅の3つの駅が地域の拠点としての役割を果たしています。加えて、京葉線の幕張豊砂駅の開業に伴い、幕張新都心全体のさらなる発展が期待されます。また、幕張新都心は高速バスで東京都心や成田国際空港、東京国際空港（羽田空港）に直結するなど、国内だけでなく海外とのアクセス至便の優位性を有しています。自動車交通では、海岸線とほぼ平行に国道14号・357号が走っており、東関東自動車道などとともに湾岸エリアの人・モノの流れを支えています。
- 昼夜間人口比率の高さ（令和2年〔2020年〕時点：115.8%）に加え、休日の滞在人口率が1.3倍に達するなど、本区には平日・休日問わず多くの人が集まっています。
- 区南西部は東京湾に面し、いなげの浜、検見川の浜、幕張の浜という総延長距離4.3kmと日本一の長さを誇る国内有数の人工海浜や、稲毛海浜公園、幕張海浜公園という大規模な海浜公園が整備され、魅力的な海辺の景観を有しています。
- 平成元年（1989年）の幕張メッセオープンでスタートした幕張新都心は、「職・住・学・遊」の複合機能の集積が進み、就業者・居住者・就学者及び新都心への来訪者を合わせ日々約23万人の人々が活動するまちとなっています。
- 幕張新都心には、日本初の本格的複合型コンベンション施設である幕張メッセをはじめとして、国際的な企業や研究開発機関などが集積しています。このほか、デザイン性の優れた住宅地区である幕張ベイトウンや幕張ベイパーク、ホテル・大型商業施設、プロ野球千葉ロッテマリーンズの本拠地であるZOZOマリンスタージアム（千葉マリンスタージアム）、サッカー日本代表や指導者等のトレーニング拠点となる高円宮記念JFA夢フィールドなどが立地しています。また、幕張新都心では、幕張メッセを中心としたエリアで、都市空間を活用したメディアアートなど、官民が連携して新しいことへの挑戦を続けています。
- さらに、ドローンや自動運転モビリティなどの未来技術実証を推進し、市内最大級の住宅開発となる幕張ベイパーク等でのドローン宅配サービスの実現や幕張新都心全体の回遊性の向上に取り組んでいます。
- 市内で最も外国人人口が多く、多様なコミュニティが形成されており、多文化共生社会の実現に向け、文化や生活習慣の違いを乗り越え相互理解に努めるなど様々な取組みが進められています。また、幕張新都心においては、幕張インターナショナルスクールや神田外語大学など、様々な国籍の方の活躍を支える環境が整備されています。
- 国際教育に取り組み、グローバル・リーダー³⁵の育成を目指す市立稲毛国際中等教育学校が立地しています。

³⁵ グローバル・リーダー：幅広い教養と国際的視野を身に付け、主体的に物事に取り組み、多目的・多角的に課題解決や情報発信できる人材のこと。

③実現に向けた取組みの方向性

- 魅力ある海辺、平坦で移動しやすい道路環境を活かし、海辺と市街地の回遊を楽しめるまちを創出します。
- 東京都内からのアクセス優位性を有する本市の人工海浜を活かした魅力あるアーバンビーチを確立し、さらなる賑わいを創出します。
- 多くの外国人市民が暮らすまちとして、国際教育や地域交流などによる相互理解の醸成や社会参画を促進し、多様性を活かしたインクルーシブなまちの実現に先導的な役割を果たします。
- 幕張新都心を核として未来技術の実証・実装に取り組むとともに、産業・文化等の様々な分野における新たな価値の創造に挑戦します。



千葉市政令指定都市移行・区設置30周年記念フォトコンテスト 美浜区区长賞（撮影場所：稲毛海浜公園）
Instagramアカウント名：jackal.418さん



幕張ビーチ花火フェスタ

6 まちづくりを進める力

- 多様な主体の一層の連携により「みんな」で進めるまちづくり
- 公共私役割分担の見直しと市民主体のまちづくりを支える仕組みづくり
- 多様な主体が社会課題の解決に挑戦できる環境づくり

- ・生産年齢人口の減少により、官民間わず担い手不足が深刻化中、地域においてはコミュニティ機能の低下が問題となるなど、地域を支える力の弱体化が懸念されています。
- ・一方、人口減少・少子高齢化、価値観や生活スタイルの変化などに伴い、地域課題が多様化・複雑化する中、地域、社会・経済及び行政サービスにおいて、既存の役割分担にとらわれない、柔軟な連携を図っていく必要があります。
- ・そのため、既存の公共私役割分担を不断に見直しながら、市民、団体、企業、大学等、行政など、まちづくりに関係する多様な地域の担い手が、対話などを通じて相互連携を強化・促進し、みんなでまちづくりを進めていきます。
- ・また、多様な主体が、地域の課題を「ジブンゴト³⁶」と捉え、互いにアイデアを出し合いながら主体的に課題解決に挑戦できる環境を整備し、まちづくりに参加したくなるきっかけをつくるとともに、その調整役としての役割を行政が担うほか、市民の目線に立ち、地域活動等に取り組む職員を育成します。
- ・これらの取組みにより、市民をはじめとする多様な主体がまちづくりの楽しさや成果を実感できるとともに、新たな交流・連携が生まれ、広がっていく好循環を生み出します。
- ・さらに、千葉県と千葉市の共通課題の解決や、それぞれの行政サービスの向上と効率化に向けた県市間の連携強化を進めるとともに、より広範囲に影響のあるものについては、適切に国への働きかけを行います。
- ・加えて、圏域の持つ特徴や多様性を活かしながら、独自のライフスタイルを提案し、圏域全体の活力向上を推進します。



³⁶ ジブンゴト：まちづくりに重要な要素である「地域に関心を持つこと」、「当事者意識を持つこと」、「課題の解決に主体的に取り組むこと」などを凝縮した言葉。市民の地域への関心や当事者意識を喚起する象徴的な言葉として、「千葉市市民自治によるまちづくり条例」において用いており、市民の目に付き、印象に残るようカタカナ表記としている。